

東京桑野会会報

●2017年4月1日発行●発行・編集人 古川清●発行所 東京桑野会事務局 〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2-9-5 東園ビル7階 新神田法律事務所内



No.39

《安積歴史博物館（旧本館）》
画：母校美術科 櫻村俊智（98期）



ご挨拶

東京桑野会会長
古川 清

- ①桑野の母校に学んだという共通の経験に結ばれた同窓の親睦の会であること
- ②会員はみんな仲良く相親しみ楽しい会であること
- ③何らかの意味で会員の頼りになるような面もある会であること

現下の世界の大問題は「格差」である。米国のトランプ大統領誕生も英国のEU離脱も韓国の政治混乱も背景には貧富の格差の拡大という社会現象がある。しかし良く考えてみれば人類にとってこの問題は永遠の課題かも知れない。アダム・スミスの国富論（18世紀）もカール・マルクスの資本論（19世紀）も基本的には「貧困からの脱出の願い」が込められている。共産主義こそ貧富の格差を克服する理想の政治技術と思われたが、崩壊したソ連やカンボジアのポルポト政権の現実はこの望みが夢に過ぎなかったことを如実に示している。我が国も「一億総中流」時代に入ったとして胸を張ったこともあったが、今や小学生の6人に1人がまともな食事をとっておらず、男性の2割は生涯独身だがその大きな理由は収入不足にあるとの統計が発

表されている。この格差増大を放置すれば国民の不満が高まり社会不安が増大し国力の減退をもたらすことは必至である。

各国はこの問題の解決に英知を絞っているが（消費税もその一つ）どうもこれと言う名案はない様である。基本的には富裕層から取った税金で低所得者の面倒を見る形となるがここに一つの問題がある。富裕層への徴税が理想通りに行かないことだ。わが国の例を見よう。平成3年の所得税税収は26兆円もあったのに平成26年には16.8兆円しかなかった。日本の経済力がこの間に3割も縮んだ筈はないので、税金の取りこぼしが増えているということなのだろう。格差是正の為には画期的な徴税技術の開発が特に待たれる所以である。

東京桑野会平成29年度 定期総会・懇親会のお知らせ

下記の要領にて実施します。会員の皆様は、万障お繰り合わせの上ご出席賜りますようお願い申し上げます。

- 日 時：平成29年5月31日（水曜日） 16：00受付開始
- 場 所：ホテル椿山荘東京 [東京都文京区関口2-10-8]
JR目白駅、または東京メトロ有楽町線江戸川橋駅 下車
電話 03-3943-1111
- 会 費：懇親会費 ¥8,000 東京桑野会年会費 ¥2,000
(合計 ¥10,000)
119期以降の若手会員は、年会費・懇親会費合計 ¥6,000
学生につきましては、年会費・懇親会費合計 ¥3,000
- タイムスケジュール
16:00 (午後4時) ~ 受付開始
17:00 (午後5時) ~ 平成29年度東京桑野会定期総会
17:30 (午後5時半) ~ 講演会
講師：田中 誠 (91期)
福島県立石川高校校長
安積高校2001年春季、甲子園出場監督
演題：甲子園に見た安積魂
18:00 (午後6時) ~ 懇親会

東京桑野会は会員皆様の年度会費によって運営されています。

総会当日にご出席できない会員の皆様には、同封の振込用紙で年度会費2,000円のお振込みのご協力をお願い申し上げます。

◇準備の都合もございますので、出欠の返事は同封の葉書で、5月22日(月)までにご返送くださいますようお願い申し上げます。

事務処理の都合上葉書には必ず住所、氏名、期を記入してください。葉書にはアンケートもございますので、ご協力ください。

◇また、連絡もれがあるかと思われるので、先輩、同期、後輩もお誘い合わせのうえ、多数の出席をお願いいたします。

◇昨年度は、2016年6月3日(金)に、平成28年度定期総会・懇親会として開催されました。懇親会会場では、プロのヴァイオリニストで幅広くコンサート活動やヴァイオリン指導を実施している、加藤菜々子様(120期)の演奏会にもなったり、ご来賓4名の他、一般会員121名、学生会員4名の総勢129名での大盛況の会となりました。

母校便り

☆母校は今年(2017年)、創立133周年を迎えます。福島県の高校で最も長い歴史を持つ母校は、永く続く伝統に積み重ねられる伝統と、新しく伝統になろうとする息吹が満ち溢れています。そのような母校の現在の様子を、母校からの情報をもとに紹介します。☆古くからの伝統と新しい伝統を見ることができるのが、安積高校VS安積黎明高校の硬式野球部の定期戦です。2016年はその第10回目が開催されました。そこで「紫魂継承」の応援を見せたのが第68代応援團長 成田蒼 君に率いられた安積応援団ですね。また、

10回目で、「安高生注目！」だったのが、今回の定期戦の為に両校PTA数名が発案&ポケットマネーで作った「ポスター」でした。母校の学校長が久保田範夫氏、安積黎明高校の学校長が源後正能氏、共に安積88期です。ポスターのキャッチフレーズが“負けられない戦いがここにある!!”…、なんだかどこかで聞いたことがあるなあ。ところで、試合の結果は？4対7で敗退…通算成績は母校の6勝4敗でした。

☆伝統と言っているのか、いつのころからあるのか、それは「対面式」。私らのころはやたら先輩が怖かっただけでしたが、今は新生生の各組が工夫を凝らした芸をやるようになっていきます。何々、1組は“愛を叫べ”、3組

は“本能寺の変”、8組は“恒例の尻文字”、新入生なんだか楽しそうだな面白そうだな、先輩はもっと新入生を怖がらせなきゃ…。

☆ロードレースも伝統になっています。元々は、1975年の駅伝が始まり。紆余曲折を経て、ロードレースとなりました。第1回の参加者の私としては(応援で、ランナーじゃなかったですけど)、ちと足を鍛えなおして、今のロードレースに参加させてもらおうかな。

☆歴史と伝統は、「部活動」です。2016年度の全国大会出場は、剣道部男子団体、硬式テニス部男子団体・男子シングルス、写真部、囲碁同好会、新聞委員会、放送委員会、パワーリフティング(個人)、の皆さん。紫旗、

はばたけ！

☆勉強も歴史と伝統ですね。129期からは（2016年3月の卒業）、第1回となった東京大学ならびに京都大学の推薦入学試験に各1名が合格。福島県からは各々1名の合格者で、やはり安高生は開拓者ですね。130期も続くことを祈る！

会員消息

○逝去された方々のご冥福をお祈りいたします。（ ）は期、逝去された日。

好川 正博(46期)(平成27年6月21日)
新関 豊(54期)(平成28年10月16日)

橋本 庄平(54期)(平成26年3月23日)
市毛 弘之(55期)(平成27年6月12日)
大越 幸男(55期)(平成28年1月)
鈴木 昭雄(56期)(平成27年4月14日)
石川 英世(57期)(平成26年9月)
斉藤 正(57期)(平成26年7月7日)
篠崎 昇(57期)(平成28年9月16日)
関根 博(57期)(平成27年8月10日)
外島 進六(57期)(平成27年5月)
菅野 茂雄(58期)(平成28年4月24日)
松下 宏(58期)(平成28年1月23日)
草野 昌治(59・60期)(平成26年6月30日)
鯨沢 俊雄(59・60期)(平成26年6月11日)
横山 弘司(63期)(平成27年10月30日)
宇田川保夫(64期)(平成28年5月3日)
鈴木 昌寿(64期)(平成28年4月8日)
渡部 喬一(64期)(平成28年8月)

井上 一三(65期)(平成27年)
横堀 豪志(65期)(平成27年3月5日)
白石 正彦(66期)(平成27年)
斎藤 雄一(67期)(平成27年8月7日)
吉田 誠男(68期)(平成26年8月16日)
野田 淳也(69期)(平成27年10月17日)
宮地 稔(70期)
増子 邦雄(71期)(平成28年10月7日)
前林 行雄(73期)(平成28年4月1日)
松川 康夫(73期)(平成27年5月31日)
菅野 増英(75期)(平成27年1月22日)
茂木 和夫(75期)(平成27年7月)
阿部 俊夫(82期)
齋藤 信(85期)(平成28年1月5日)
家久来大朋(91期)

[敬称略]



ご挨拶 7年目の春

安積桑野会会長
安孫子健一(80期)

東京桑野会の皆様には、ご健勝のこととお慶び申し上げます。また日頃、安積桑野会の活動にご支援をいただいておりますことに、心から御礼申し上げます。

今年の正月は暖かく穏やかな三が日となりましたが、2日3日は東京箱根間往復大学駅伝のテレビ映像を見て過ごしました。本校OBの相楽豊監督(112期)率いる早稲田大学の優勝を願っての観戦でしたが、残念ながら総合3位の成績となりました。しかし、昨年より順位を1つ上げた結果から、

来年が楽しみです。早稲田のみならず本県出身選手所属チームの活躍を期待したいと思います。

さて、大震災から6年が過ぎました。地元新聞(民報・民友)の一面に、震災・原発事故関連の記事が載らない日はありませんが、全国紙では事故や異常事態でも無ければ記事となることも少なくなりました。福島県内の復興事業は徐々に進んでいますが、未だ多くの県民が避難したままです。そのような状況ですが、4月には帰還困難区域を除き、各町での避難指示解除が実施される予定です。その中に富岡町があります。その富岡町で、訪れる人の心を和ませていたJR常磐線夜ノ森駅のツツジが、除染工事で伐採されることになりました。ツツジは除染方法が確立されておらず、放射線量が高いため別の場所への移植も困難との判断です。ツツジは町の花で、シンボルの一

つ。町議から伐採反対の意見が相次ぎました。そこで町が受け入れた計画では、伐採後も根は残して枝を育て、駅ホームに面する場所には花壇を設け、ツツジの再生を図ることにしました。根から育てて花が咲くまで約5年かかるそうです。夜ノ森の桜並木とともに町民の心の拠りどころになってきた駅のツツジが、枝を伸ばして再び花を咲かせるように、復興への歩みを力強く着実に進めることが使命と福島県民は考えています。

平成27年4月に創刊された「高校生が伝える ふくしま食べる通信」という情報誌があります。今年2月にこの団体が復興庁の「『新しい東北』復興・創生顕彰と復興功績顕彰」に選ばれました。これは東日本大震災、東北電力福島第1原発事故の被災地で課題の解決に向けて取り組む個人・団体を表彰する制度です。原発事故の風評払

世界をもてなす、日本がある。ホテル椿山荘東京
Bringing Japanese hospitality to the world HOTEL CHINZANSO TOKYO



そこには、さながら森のような庭が広がっています。

東京のまん中にあるとは思えない、静寂につつまれたやさしい時間を、心ゆくまで味わってください。

At Hotel Chinzanso Tokyo, we are honored to share this heritage with you through our services and accommodations and especially our legendary garden. Discover the essence of Japanese hospitality.



世界をもてなす、日本がある。



HOTEL 椿山荘 TOKYO
CHINZANSO

〒112-8680 東京都文京区関口2-10-8
10-8, Seiguchi 2-chome, Bunkyo-ku, Tokyo, 112-8680, JAPAN
TEL.03-3943-1111 http://hotel-chinzanso-tokyo.jp/

拭を目指し、県内の高校生が農家取材し、記事を書いています。生産者の思いがこもった農産物を付録にし、料理のレシピも掲載しているのが特徴です。安高の生徒も関わり続けています。「食材付き情報誌」として人気を集め、全国に約800人の購読者がいるそうです。「志を後輩につなげながら今後も

農家の思いなどを末永く発信し続けていきたい」という強い思いが生徒の伝える力を育てています。今後も若者達の活動に期待するとともに、私達も復興へ向けて、県外の方々とともに福島の実情を発信し続けて行かなければと考えています。

最後になりましたが、本年も多くの

後輩達が東京周辺へと居を移し、勉学に励んでいます。これからも今迄同様応援よろしく願いいたします。本年が東京桑野会会員の皆様にとって、より良き一年であることをご祈念いたします。

(株)建設相互測地社 代表取締役)

ご挨拶

安積の平成28年度、
そして17年後の
創立150周年に
向けて



安積高等学校校長
久保田範夫

昨年6月3日の東京桑野会定期総会当日は、福島県高等学校長協会会長用務と重なり出席できず申し訳ありませんでした。代わりに出席した阿部拓広教頭(28年4月着任)も、昨年の鈴木教頭同様、その盛会の様子に驚いていました。

安積の平成28年度は、修学旅行とロードレース大会が、例年と違う形での開催となったので紹介します。

修学旅行については、久しぶりの海外旅行でした。平成19(2007)年、122期生がシンガポールへ、平成22(2010)年には125期生が韓国に行っているの、3回目の海外で、初めての台湾(中華民国)修学旅行となりました。約70万点に及ぶ古代中国の美術品及び人工品を所蔵する故宮博物院で中華文明の神髄に触れ、現地の高級中学校と交流するなど、修学旅行の名に相応しい成果を上げたと考えています。

また、校内ロードレース大会については、例年会場にしてきた東山霊園(市東部の田村町小川)が国・県・市の除染事業のため使用できず、大槻町の西部サッカー場をスタート・ゴールとする、広大な田圃の中を走る大槻・多田野周辺の道路に会場・コースを変更して何とか開催にこぎつけました。

ここで、この大会の40年を超える歴史を振り返ってみたいと思います。

昭和49(1974)年、88期生の私が3年生の時(鈴木勝枝校長先生でし

た)、創立90周年の記念事業の一環として、翌年の第1回駅伝につながるプレ大会が学校周辺コースで開催されたのが、そもそもの始まりです。

翌昭和50(1975)年11月8日、創立90周年第1回校内駅伝競争大会が開催され、安積高-柴宮-大槻-片平-多田野-三穂田-安積町-安積高ゴールの15区間46km(!!)のコースをクラス対抗で健脚を競い、91期1年1組が2時間54分49秒で優勝を飾りました。

その後、昭和55年の第6回大会で悲劇が起きました。自転車で応援に向かっていた生徒が、暴走車に追突されて亡くなったのです。翌年の大会は、生徒への哀悼の意味もあり中止に。翌年も開催についてかなり議論したようですが、亡くなった生徒の御遺族からも、大会を継続してほしいという考えが学校に伝えられたことなどから、最終的には大会を継続することとなり、昭和59(1984)年の創立100周年第10回大会まで続きました。しかし、交通事情の悪化は如何ともしがたく、翌昭和60(1985)年には、駅伝大会を「発展的継承」(創立110年誌)し、原則全員が約10km(共学後は、女子5kmコースを追加)を走る「校内ロードレース大会」に姿を変え、東山霊園を会場として平成27(2015)年の40回大会迄続きました。その間、平成7(1995)年には、第50回ふくしま国体のため中止となったり、平成16(2004)年には、120周年を記念して、猪苗代湖畔から安積歴史博物館まで安積疎水をたどる32kmの強歩大会(安積野ウォーク)(マラソン大会とは違い、順位競争はしなかった)とするなどの変遷はありましたが、東山で30年続いた安積の伝統行事となったのです。

東山霊園が除染事業のため使用できないと分かり、中止も含めて検討した

のですが、伝統行事であり、実施することはすんなり決まりました。しかし、霊園のように、ある程度閉じられた空間というロードレースに適した場所を探すのは大変でしたが、体育科の教員が中心となり、何とか代わりのコースを設定することができ(私も何度もコースを下見しました)、PTA、安積桑野会、桜桑会の協力を得て、無事終了することができました。改めて感謝の意を表したいと思います。

今年平成29(2017)年の干支は、丁酉(ひのととり)。私事で恐縮ですが、丁酉は私自身の干支、と言うことは「還暦」であり平成28年度末に60歳定年退職となりました。私は、2度に亙る母校勤務(教諭として11年間、校長として4年間の計15年間)を経験し、また、90周年を3年生の生徒として、110周年を教諭として、そして130周年を校長として、不思議なことにちょうど20年刻みで大きな周年行事を経験することができた大変幸せな男です。このサイクルだと、私が生きていればですが、77歳の年に150周年を迎えることとなります。何らかの形で関わることができればと思っていますが、果たしてその思いは叶うのか……。

さて、安積は平成29年度に創立133周年を迎え、学校祭である紫旗祭が130周年以来の開催となります。

私は退職となりますが、七州の覇と称えられるに相応しい安積高校にしていくこと、更に大きくなっていく「安積の殿堂」を日本一揺るぎないものとする、この二つを念頭に置き、創立150周年を見据え安積の教職員一同しっかり努めてまいりますので、これからも東京桑野会の皆様からの温かい御支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

第45期 満100歳 彫刻家 佐藤静司先輩を訪ねて

《高松 ゆたか (74期)》

「満百歳の彫刻家、45期佐藤静司先輩、お元気で制作中」とのこと。総会準備会のお開きに古川会長から「取材して、会報に寄せたらどうか」とのお話。「解りました」と即答しました。とは言え、100歳・お元気・私のイメージでは、映像化出来ませんでした。

しかし、100歳の現実には、正面から向き合って、現実から事実を学ぶしかないと思い、H28年4月24日(日)に御自宅を有志6名と訪問させて戴くことに。その訪問記を寄せて頂いた5名の文章を、会報では、オムニバス形式で掲載させて戴くことになりました。まずは取材係の代表として高松から始めます。

訪問の日は、ご本人と、電話で確約できましたが、話し言葉の対応は明快でした。この時点で、満100歳の先輩に過る心配は薄れ、晴れ間が広がってゆくようでした。イヨイヨお訪ねしてみると、背筋のピンとした170cmを越す上背、足腰達者、穏やかな言動、明快な対応ぶり、制作はアトリエの立ち台座(立って制作する)で制作されているとのこと、制作意欲、体力の保全、無理のない時間の利用に・・・敬意を抱きました。

「先生のお元気の秘訣は?」「特にないな・・・カネ儲けは望まない・・・お酒は飲まない・・・」「このくらいかな」と。アトリエで制作を主とする彫刻家や絵描き、その多くの芸術家は、作品で職業化することは、困難な仕事です。しかし、安酒を飲んでも、パンの耳を食べて腹の足しにしても、立体や平面から自分だけの世界を彫り出す、描きおこす、反問しながら美の魅力を追いかける創作の仕事は、体力も精神力も消耗するほど、孤独と闘うものです。「長生きか・・・秘訣などないナ・・・」も、ごく自然な有り方だと思いました。やがて帰り支度の玄関先で「先輩、校歌覚えていますか?」「覚えているよ」と、さらっと言われ、玄関でお暇する間際、大矢さん(88期現役時応援団長)の指揮で、私たちと正対して深く静かに校歌を斉唱しました。

母校旧本館前の“安積健児の像(1984年佐藤氏69歳の時の作品)”と重なりました。「おお、安積健児、されど安積健児、ここにあり」実感でした。

《高崎 千鶴子 (安積女子高校10回卒)》

陽春の昼下がり、郡山の数々のモニュメントを制作された彫刻家、佐藤静司先生のお住まいをお訪ねいたしました。100歳を超えてなお制作を続けられておられるとのこと、きちんとジャケットを身に着けて、同郷の訪問客を迎えて下さりました。生い立ち、

彫刻家になるまでのエピソード、奥様との出会い、人生の信条など、間近にお聞きすることが出来たことは望外の幸せで、時を経てもお姿が目に見えます。

郡山で、先生による沢山の作品に接する機会があったはずなのに、これまでは作家のお名前までは知らないままでしたが、気づいてみると、私の母校安積黎明高校にある乙女像の作家であり、なんと、安女時代の同級生佐藤S子さん(旧姓)の叔父様であることも分かりました。

それに、佐藤先生が懐かしんで話されていた小学校時代の恩師であり長年にわたる支援者でもあった佐藤覚氏は、花かつみ会(安積黎明高校同窓会)の前会長古宮節子さんのご尊父であることも分かりました。古宮さんとは、花かつみ会の活動を通じて懇意にしておりますので、佐藤先生が、同郷というだけでなく一層近い存在になりました。

芸術家にとって神聖な場所であるアトリエまでご案内くださり、佐藤静司芸術の奥義にまで接することができた思いです。最近の作品という、やわらかい表情の童女像が印象的でした。

100歳にしてなお、「良い彫刻が作りたい」と話され、1年に1点、日展出品が目標とのことでした。今度は、上野の美術館で先生の作品との出会いが実現するように願っております。

小橋クリニック

院長 小橋主税 (86期)

福島県須賀川市仁井田大谷地172-3
TEL 0248-72-1555

《武藤 勇司 (71期)》

平成27年11月に、小生の家に郡山市立美術館より、木彫の正統 没後70年「三木宗策の世界」彫刻展（※平成27年に実施済）の案内・招待状が届きました。佐藤静司氏が16歳で入門した三木宗策は、小生の母の兄にあたります。

美術館を訪れ作品を一覧の後、学芸員の方と懇談する中で佐藤氏の近況をたずねたところ、100歳にして現役、出展のため創作に励んでいる、とのことでした。また、「三木宗策の世界」展には、佐藤氏の多大な協力があって成功できたそうです。帰って、東京桑野会の幹事会（2016年4月）の席で佐藤氏の話をしたところ、古川会長から数人で伺っては、との提案があり、訪問が決まりました。

ご自宅でのお元気の姿は、100歳とは思われない凛としたものでした。我々の訪問を受けて前もって来し方を回想しておられた様で、インタビューには穏やかで澁みなく答えて頂きました。安積中学を中退して16歳で三木宗策に入門するまでの経緯、21歳で第1回帝展に「かわうそ」初入選したのは、上野のデパート屋上で飼っていたかわうその様子を表したことで、25歳で現在の地にアトリエを建て独立、29歳で入隊し創作の道を閉ざされた無念な気持ち、70歳ごろ渋谷で托鉢の僧を見かけ急ぎスケッチブックと鉛筆を買ってスケッチをさせてもらい、以後、僧シリーズが始まったこと、82歳で勲四等瑞宝章受章時の心境など語って頂きました。長いインタビューでしたが、全てを丁寧に応じて下さり、我々の励みになるものでした。最後は玄関先で皆で校歌を唄い、佐藤氏の健康と長寿を記念しつつアトリエを去りました。

《平田勝也 (76期)》

世田谷区尾山台にお住いの御年100

歳になられる著名な彫刻家である佐藤静司大先輩をお訪ねし、その芸術談や波乱万丈の人生を約2時間にわたって伺いました。訪問団は、インタビュー・撮影・録音・花束贈呈・菓子贈呈そして校歌の役割分担の上でインタビューに臨みました。

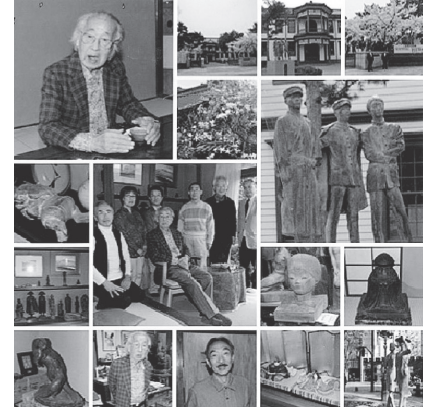
佐藤先輩は、旧制安積中学を1931年中退、上京して彫刻家 三木宗策に入門師事。永く創作活動を続けられ、その芸術性は高く評価され、美術界の重鎮として100歳を迎えた現在も、日々新たな心境研鑽の下清新な彫刻像を制作されております。作品群は、日本国内に広く設置されております。以下に、郡山市立美術館で行われた「佐藤静司彫刻展（2007年）」の資料から引用してご業績を顧みたいと思います。

“『同郷の木彫家・三木宗策（1891-1945）』に学び、戦後は澤田政廣（1894-1988）に師事して伝統的な木彫技術を習得。1960年代以降、確かな技術に裏付けられたモダンな造形で、ストイックでありながら自由闊達でユニークな作品を発表しています。・・・

日展では審査員、評議員などを歴任し、1997年には勲四等瑞宝章を受章。郡山市フロンティア大使でもある彫刻

家・佐藤静司。凛々しく力強い僧侶、あどけない表情の幼児、美しい女性像や慈悲あふれる母子像といった作品の数々―その木のぬくもりと清々しさは私たちをやさしく包んで、心安らぐ時間をもたらしてくれることでしょう。”

以下に写真を通して、佐藤静司先輩の人となり及び作品群の一端を紹介いたします。



《大矢 真弘 (88期)》

彫刻家で100歳になられる先輩宅を訪問すると聞き、安高の先輩で珍しい方がいらっしゃるんだと思い、不謹慎ながら興味本位で同行させていただきました。

田園調布を見下ろす世田谷の高級住宅地を数分歩くと、異空間を醸し出す鬱蒼とした竹林が現れ、そこに隣接す



《安積健児の像》画：渡辺莉江 (131期)

るのが佐藤静司先輩のアトリエであり自宅でした。庭の雰囲気にも品があり、現代社会とは違った何とも言えない落ち着いた空気が流れているお宅でした。

居間に通していただいた我々は、どこも無く緊張しておりましたが、佐藤先輩のお人柄により、すぐに安積の先輩後輩になることができました。

基礎知識が無く訪問した私は、この佐藤先輩が安高100周年以降、正門から毎朝後輩たちを見守ってくれている安積健児の像や郡山駅前等に見かけるブロンズ像をお作りになった方ということを知り、赤面の極みでした。

郡山駅前にお住まいであった幼少の頃からのお話も伺い、楽しいひと時を過ごしてから、アトリエにもご案内していただきました。完成した作品はともかく、これからの制作のための大きな太い木がありました。こんなに太く硬そうな木を削り、作品に仕上げるとは信じられないような感じでし

たが、最近のニュースに佐藤先輩が県産のヤマザクラを材料にした「幼児の首」を昨年の「幼女の首」に続き日展に出品すると出ておりました。さらに来年の日展に向けてアトリエにクスノキの木材も準備しているとのこと。

安積高等学校伝統の開拓者精神ここにあり!!

—高齢者医療の現状—

土屋繁之 (86期)

私は郡山市内で99床の療養病床(医療保険病床:79床、介護保険病床:20床)の病院に勤めています。入院患者さんのほとんどは急性期病院で治療を受け、或る一定の病態で落ち着き、医療的管理必要性が高いことより自宅療養するには難しい方です。退院する方の多くはお亡くなりになって自宅へ戻られます。入院の長い方では10年という方もいて、当院における入院期間(在院日数)の平均は175日

と急性期病院に比べるとかなり長期となっています。

昨今の医療費抑制政策から厚労省はこれらの長期療養が必要な患者さんを自宅で看る(在宅療養)ように推し進めています。在宅療養となれば個人負担が増えますが、国が負担する医療費が減るという理屈からです。桑野会の皆さまには医療関係者が多くいらっしゃると思いますがいかがお考えでしょうか。確かに大病を患い倒れて長期療養が必要となった方の回復の見込みは殆んどなく現状維持がやっとなです。しかし現在の急性期医療では脳卒中や心筋梗塞など生死に関わる急病で救急搬送されれば何らかの形で救命されます。その方たちが救命されるばかりに手が掛り、医療費がかさむと判断するのはいかなるものでしょうか。結果で評価するなら急性期医療で個人として生活することが難しいと判断されれば手を尽くさないと取り決めた方がはるかに解り易

不法電波は
やめましょう!

技術と奉仕の無線機器部門
ソフト開発と奉仕のコンピュータ機器部門
ニーズに対応、奉仕の電話機器部門
株式会社富士通ゼネラル通信特機特約店
富士通テン株式会社特約店

ATIS(自動識別装置)を
必ず取り付けましょう!

株式会社 山口電機

www.yamaguchi-denki.co.jp

本社 宇都宮市宮の内2丁目184番地18
水戸支店 水戸市中河内町67番地1
さいたま支店 さいたま市三橋1丁目815番地
東京支店 江戸川区春江町2丁目10番3号
千葉支店 千葉市稲毛区六方町215番地22
高崎支店 高崎市倉賀野町5319番地1
会津若松支店 会津若松市一箕町八幡38番地11号
横浜支店 横浜市青葉区元石川町3719番地8

TEL(028) 655-1600(代表)・FAX(028) 653-7817
TEL(029) 227-2205(代表)・FAX(029) 227-2237
TEL(048) 663-4000(代表)・FAX(048) 663-4274
TEL(03) 3698-1600(代表)・FAX(03) 3698-1699
TEL(043) 423-3000(代表)・FAX(043) 423-3503
TEL(027) 346-4000(代表)・FAX(027) 346-4004
TEL(0242) 23-1700(代表)・FAX(0242) 23-1701
TEL(045) 921-5100(代表)・FAX(045) 921-5416

代表取締役 山口雄機 (74期)

いし急性期医療費も抑制されます。しかし生きることを大切に考えてきた日本人の心が経済ありきの米国風に傾いてきていることは果たして良いことなのでしょうか。

一般に慢性期病院に入院している方の管理は毎日が穏やかに過ぎて急性期のような厳格な管理は殆んどないです。しかし毎日の管理が無くなれば現在の病態が急変する可能性を秘めた方ばかりです。今落ち着いているから、この病状なら在宅で十分だろうという判断を厚労省が診療報酬（レセプト）から勝手に判断するのはとても危険です。またそのように潜在的にリスクの高い状態で自宅へ戻されるご家族にとっての心労は計り知れないものがあります。大きな変化がなくても手を掛けることは急性期も慢性期も同じです。手を掛けることを止めればすぐ悪化してまた命に関わる病態となります。そしてまた高齢者の救急搬送が増えて急性期医療費が増大します。このような悪循環が起きるといふ推測は厚労省の役人なら簡単にできることですが彼らはそれを無視して少子高齢化・社会保障費減少などのお題目を唱えながら在宅医療政策を推進しています。

私は病院入院、施設入所から在宅療養へ移行することはこれからの時代仕方ないことと考えています。まさに少子高齢化で社会保障費が充分確保できないなか高齢者医療をどうするかとなれば個人負担で親族の面倒を

みることが当然となります。それがまさしく在宅医療のことでしょう。しかし医師（医科、歯科）や看護師、機能訓練士、ケアマネージャーなど多くの職種の関わりが求められる在宅医療において人材確保が難しい今の福島県にこの政策を強引に推し進められればいずれ破綻が生じ多くの地域住民が困果てます。東京や大阪のようなマンパワーが余っている所はうまくいく可能性は高いでしょう。しかしそのような一極集中型の医療の在り方に傾倒することは国全体の政策としてはいかがなものなのでしょうか。今はじっと高齢者を大切に、みんなで面倒見るのだという家族的な取り組みこそ求めるべきと思います。

世の中高齢社会となり日本全国で認知症対策が大きな問題となっています。日本はなぜ認知症社会となったのでしょうか。高齢化が原因でしょうか。いや私は違うと思っています。その大きな原因は核家族化です。爺さん、婆さんとなっても同じ屋根の下で家族が暮らせば、孫の世話をしたり、掃除・洗濯をさせられたりと“ボケてる”暇なく何かをさせられます。しかし老老介護や独居老人となるから周りとの関わりがなくなり“ボケる”のです。その挙句が大病して倒れ、長期にわたり療養しなければいけない病状となると“邪魔者”扱われ時代に切り捨てられるようになるのです。日本のために働いてきた国民がこのような終末期を迎えることは果たして

仕方ないことなのでしょう。

結論が見えないなかで毎日忙しく老人医療に取り組んでいます。桑野会の皆さま、ご自分の老後はご自分で設計して準備してください。国はこれからの“高齢者”を決して守ってくれません。忘れていました。官僚の方がおいででしたら田舎医者のお戯言とお許しください。有難うございました。（郡山医師会会長、医療法人慈繁会理事長）

健康寿命の延伸のために我々ができること

坪井永保（91期）

厚生労働省は2000年3月に21世紀に向けて国民一人一人が健康を実現するためのガイドラインとして「健康日本21」を策定しました。これは、国民の健康寿命の延伸（健康で長生きすること）のために、様々な生活習慣病の危険因子、罹患率・死亡率を10年間でどこまで改善できるかという目標を設定して、様々な健康政策を展開するというものです。2000年からの10年を第一次とし、2011年4月から再び10年計画で「第二次健康日本21」が開始されました。重点項目は栄養・食生活、身体活動と運動、休養・こころの健康づくり、たばこ、アルコール、歯の健康、糖尿病、循環器病、がんの9項目です。

皆さんは病気の一次予防、二次予防

故郷を味わう、故郷に触れあう

そば うどん 酒処

鞍手茶屋

昼はボリュームたっぷりで
ヘルシーな そば・うどん
夜は品揃え豊富な
東北の地酒で一杯

大手町店 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-1-3 大手センタービルB1 ☎03-3213-2385
中山峠店 〒963-1304 福島県郡山市熱海町国道49号線中山峠 ☎024-984-3774 〈店主〉上野富衛(78期)

という言葉をご存じですか？ 一次予防とは病気の発症そのものを予防することを指します。たとえば、バランス良く食事を食べ、運動不足にならないように努力し、なるべくストレスを避ける努力をして健康的な毎日を心がけて生活習慣病などを予防することが一次予防です。それに対して二次予防は、病気の早期発見・早期治療です。病気を早い段階で見つけて治療を行うことです。このために重要なことは健康診断や人間ドックを利用することです。

今まで、一次予防も二次予防もともに大切だとされてきました。しかし、近年の生活習慣病の増加によって、より一次予防の必要性が強調されるようになりました。健康日本21プロジェクトはこのことから始まりました。

メタボリック症候群という言葉が数年前にブームになりました。肥満に加えて高血圧、高脂血症、糖尿病などが合併している状態で、心筋梗塞や脳卒中を高率に発症し死に至る怖い病気です。肥満は寝ている間に呼吸が止まる「睡眠時無呼吸症候群（SAS）」という病気の原因にもなります。

皆さん、寝ているときに大きないびきをかき、人から「息してなかったよ！」と言われた事や、そばにそのような人はいませんか？ 我が国は、中高年の男女を中心として約22パーセントつまり5人に1人がSASだといわれています。

10秒以上呼吸が止まることを無呼

吸と呼びますが、SASは「無呼吸が一晩（7時間以上の睡眠中）に30回以上ある場合」と定義されています。「閉塞」といって、のどの奥が閉じてしまう事によっておこる「閉塞型睡眠時無呼吸症候群」がほとんどです。

SASは放っておくと高血圧、高脂血症、糖尿病、不整脈などを合併し、狭心症や心筋梗塞、脳梗塞や脳卒中といった命にかかわる病気を引き起こします。

SASの一番の原因は肥満です。首や喉の周りに脂肪がつき、首が太くなり、普段から喉の奥が狭くなっているのに加えて、仰向けに横になると益々詰まりやすくなります。肥満以外には、日本人の場合、人種的に顔の彫りが浅いので、のっぺりした顔の人には太っていても無呼吸の人がいます。また顎の小さい人も注意が必要です。このような特徴があり、いびきがうるさくて、同じ家でも別々の部屋で寝ている。昼間、耐え難い眠気が襲ってくる。朝、起きたときにすっきりしない。などの症状のある方はぜひ睡眠時無呼吸症候群の診療をしている医療機関を受診して下さい。

次にたばこです。たばこの煙には4,000種類以上の化学物質、約200種類の有害物質、約60種類の発がん物質が含まれます。多くの有害成分は比較的高温（最高約900℃）の吸煙時よりも比較的低温（最高約600℃）の自然燃焼時に発生しやすいのです。副流

煙は主流煙よりも多量の有害物質を含むのはこのためです。そしてたばこは、肺がんをはじめ全身各所のがんの原因になるばかりでなく、「肺の生活習慣病」と呼ばれているCOPDという病気の原因にもなります。COPDはたばこの煙の有害物質によって肺が壊れる、溶ける病気です。ゆっくりと進行し、症状が出る頃には肺の壊れが進行していることが多いのです。一度壊れた肺は残念ながら修復しません。非常に怖い病気です。

たばこを「やめたい気持ちはあるけど、なかなか決心がつかない。」「自分一人でやめる自信がない。」など悩んでいる人には禁煙外来があります。敷地内禁煙が実行されているなどの施設基準を満たした医療機関で、患者基準を満たした方が禁煙外来を受ける場合、保険適応となります。禁煙補助薬としてチャンピックスという飲み薬を使用し、2週間毎に外来受診してもらい問診、診察、処方を行います。期間は8～12週間です。禁煙外来に必要な費用は2万円以下で、たばこを毎日1箱吸い続けた場合のたばこ代より少ない金額です。

以上、今回は健康に長生きする秘訣としていくつかの病気を例に挙げてお書きしました。また、機会がありましたら他の病気についてもご紹介いたします。

（一般財団法人慈山会医学研究所付属坪井病院 理事長）

特集②『映像の中の安積』

『1986年7月24日』 貴方は何をしていましたか？

柳沼 聡（90期）

安積桑野会の各支部の皆様方、お元気ででしょうか。冒頭、こんな書き出しになりましたが、今年の会報原稿につ

いては、東京桑野会と仙台安積桑野会へのダブル投稿という栄誉を頂戴したいと思い、還暦前の崩れ行く脳細胞を必死に鞭打ちながら、青息吐息で搾り出しております。（実は同じ文書を2ヶ所にバラ蒔くだけです…）

というのも、タイトルの「1986年7月24日」とは何ぞや？と、思われ

し会員の皆様が大多数だと思いますので、先ずは種明かし。

実はこの日、安積歴史博物館（私達の頃は旧本館と呼んでいた）がテレビで全国に放映された記念すべき日なんです。

110期位までのOBなら、幼い頃の記憶で、TBS系の「ザ・ベストテン」

—東宝映画「百万人の大合唱」と安積高校—
1972年2月26日初日公開

渡邊龍一郎 (81期)

今年の会報のテーマは「映像の中の安積」だという。東宝映画「百万人の大合唱」で安積高校にまつわる話を書けとの依頼があった。1971年、昭和46年当時、私は日本大学芸術学部映画学科監督コースに在学中でJLGやトリフォー、フェリーニの作品に夢中になっていた。どうしても映画の世界に入りたかった。夏休みに入って間もなく報知新聞で映画製作発表の記事を目にした。映画のタイトルは「百万人の大合唱」、強引に売り込んでスタッフとして参加させてもらった。『制作兼4th助監督兼郡山弁アドバイザー』渡邊を助監督にして正解だったと後から聞いた。それはそうだろう私以上に郡山の事情通はスタッフにはいないのだから。

話を安積高校の件に戻そう。私がスタッフに参加したときはすでにロケ場所は決まっていた。しかしその後安積高校にロケ場所を変更した経緯は、プロデューサー兼脚本執筆した高島久氏が脚本を書くにあたって郡山を取材した時、タクシーで市内をぐるぐる回ったり、夜は居酒屋で郡山の空気を感じたりしたらしい。はじめ合唱の話ということもあり、合唱で全国的に有名な安積女子高校をロケ地にしようと考えていた。その後、安積高校の本館を正門から見て絵になるなあといいそれなら安女と安高の2校を出そうと思った。ロケ地の最終決定は監督が決める。脚本ができて安高を見た須川栄三監督は即決し、安積高校が最終的にロケ地に決まった。

撮影当時本館1階は、校長室、教科別教師室、事務室、音楽室、医務室や吹奏楽部、演劇部、合唱部などの部室

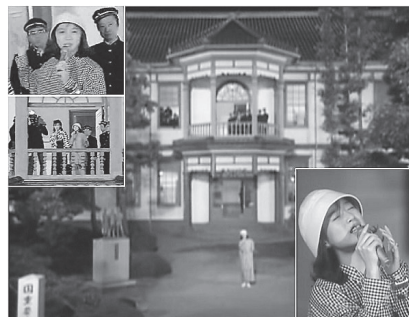
員も含めてエキストラ出演と相成った訳であります。

という経緯から私もエキストラに参加して、数秒ではありますが、あの明菜ちゃんが目の前を通り過ぎて行くのを、固唾を呑んで見守っていた一人でありました。

中庭では当時の同窓会会長、故)安藤定重(禰宜さま)が学帽を被り安積の歴史を披露し、かたや教室では、どう見ても学生らしからぬ30代~50代の薄汚れたオッサンが詰襟を着て学帽を被り、あまつさえ小賢しい演技をするヤカラもいて、当時の映像がYoutubeに残っているらしく(※編集部注 現在は削除)、消えて無くなれ~って思っているのは私だけではないと思います。収録後、車で校庭から外に出ようとしたら、熱烈なる「明菜ファン」に囲まれて、10分程立ち往生したり、帰宅したら茨城の大学の同級生から「何で出てるんだア??」と電話を貰ったり、久々に思い出した1ページでありました。

人生いろいろ、この話題をおち込んで、私を祀り上げようとしている91期東京桑野会の某君へ。君達の代へ応援歌指導してあげたのは誰だったか覚えて無いようだから、今度会ってみちりと思ひ出して貰おうか(爆)いやいやお声がけありがとう。

安積の繋がりに、大いに感謝してます。(株式会社恒和薬品)



©TBS、「ザ・ベストテン」

を覚えてますか? 久米宏、黒柳徹子のコンビで、当時流行った歌謡曲を毎週ランキング形式で発表し、スタジオで生歌を披露する、またはコンサート会場、ロケ先で中継しながら歌う、あの有名な番組が、なんと我が安積高校のバルコニーからの映像が全国に轟き渡ったのです。

と、言いながら最近解ったのですが、民間放送局は全ての都道府県を網羅している訳では無いんですね。秋田県に出張で行ったら、いつも見ている朝の番組が放送されてなかったり、青森県では過去に「笑っていいとも」が夕方放送されていたそうです。

さあ、話を戻しましょう、あの時の記憶を、今一度リピートしてみたいと思います。

福島県も例に漏れず、TBS系の地元放送局であるTUFは、その当時設立したばかり、新進気鋭の91期「A君」もフレッシュマンで報道の仕事に燃えておりました。

ここから先は某芸能関係者?からの伝聞なのですが、1986年7月24日は、郡山市文化センターにおいて「中森明菜」がコンサートを開催する予定が決まっており、終演後にステージから生中継で「ザ・ベストテン」に生出演の予定だったそうです。が、そこは我儘?な歌姫様が(どこか別のところで歌いた~い)と言ったとか言わないとか... さて困ったTUF、ならばあそこでやっちゃえ~!となったらしい(伝聞だよ)。

まあ今更、真実は闇の中ですが、正式決定、調整に入っていたところ、どうせ開放するなら、旧制中学を髣髴とさせる校内の映像も流して、エキストラに学生も出演させようと話が火を大発展。大人気のアイドルが来るとなれば、現役生にはパブロフの犬状態になり、混乱は不可避な事は、当時男子校だった訳でありますから正に自明の利。そこで差し障りの無いOBに声掛け、教



1971年9月ロケ撮影時、玄関前のバルコニーを支える柱が4本ある

があり、2階は講堂と3年生の教室があったと記憶している。撮影は朝、磐梯熱海の栄楽館（俳優やスタッフの宿泊場所）を出発し安高に着くと早速撮影準備にかかった。主人公の若林豪が音楽界のポスターを張るシーンを正門付近で、刑事が事件の事情を聴きに來るシーンを数学の教科職員室で、吹奏楽の練習風景を体育館脇のぼろ練習場で撮影した。吹奏楽部のOBとしてはうれしかった。在校生もエキストラで参加、ロケ中に世界史の竹花先生が顔を出し、「映画の撮影がい、すごいな」と言われたのが記憶にある。卒業して数年たったが私の顔を覚えていたようだ。在校中はお世話になりました。部室の前が教員室だった。

主人公若林豪の下宿先が寺の離れの設定で、ロケ場所が安高正門前の道因寺であったことも、安高がロケ地に選ばれた一因、撮影効率を考えてのことであった。

昭和47年2月26日公開初日に渋谷の東宝映画館で封切り上映を見た。試写で見ていたが、大きなスクリーンで見る映画は格別。安積高校が画面いっぱいになったときは、胸が熱くなり、涙が浮んだ。不幸にして浅間山荘事件の余波で、1週間で上映打ち切りその後、映画館で上映されることはなかった。

—フジテレビ新春ドラマ
「坊っちゃん」—
2016年1月3日放送

広報部会編集委員会

昨年2016年のお正月にフジテレビ系にて放送された、新春ドラマ「坊っちゃん」。皆さんご存知の夏目漱石原作で、今回は「嵐」のニノこと二宮和也主演のドラマである。直前になって安積桑野会から「安歴博にてロケを実施したので見て欲しい」と連絡があり、家族ともども放送を見た。ストーリーやドラマの仕立てはよく判っているが、わが安積高校旧本館がドラマの主演場所であり、豪華な役者さんやアイドルの登場とも相まって興味深く見たのだが、皆さんはどのような感想を持っただろうか。

主人公「坊っちゃん（二宮和也）」が東京の物理学校を卒業し、就職して赴任した先が「愛媛県立松山中学校」。船を降り汽車に乗り換え、駅から人力車でたどり着いた先が、なんとびっく

り東西の横幅が本物の半分にも満たない安積歴史博物館の正面玄関前だった。中央のバルコニーを支える柱が4本ある。ああなんと懐かしい、私が学んだ46年前の本館校舎の正面玄関だ。CGで作ったのだろうか、前2本の柱がしっかりあるじゃないか。正門の看板は？と見れば、「愛媛県立松山中学校」と書いてある。細かいが、玄関両脇の街灯や植栽などCGで描き込まれている。ご丁寧に、校長の胸像が玄関の右手に鎮座しているものの、安積健児の像が消されてしまった。さらに内部に進むと、廊下や教室は安歴博の内部そのものである。ここを舞台にドラマは痛快に進むが、最後に見るとこの校舎は山の中のススキ原に囲まれていた。卑劣な赤シャツこと教頭（及川光博）に玄関前で鉄拳をくらわせ、坊っちゃんは山嵐こと数学教師（古田新太）と校門を出ていく。その周囲を見ると、壊れかけたあばら家に背丈ほどに伸びたススキの穂がボウボウ。う～ん、安積はこんなに田舎じゃないぞ。演出は誰？「鈴木雅之」って、あのサングラスに口ひげのミュージシャン？と思ったら同姓同名の演出家だって。

ドラマの制作者側から見れば、明治の洋館建築物が旧制中学の校舎のイメージ通りで、安歴博に白羽の矢が立ったものと思われる。2011年3月の震災にも耐え、見事に復興して漆喰壁も新しく、美しくなった安積高校旧本館をこれからも大切に、末長く保存していきたい。故郷を離れて首都

晴海パートナーズ法律事務所
税理士法人晴海パートナーズ
弁護士 後藤 大 (107期)

〒104-0045
東京都中央区築地2-15-19
ミレニアム築地6階
E-mail: gotodai@harumi-partners.jp
http://harumi-partners.jp/
TEL: 03-6264-1588 / FAX: 03-6264-1589

小濱 精吾 (58期)

株式会社櫻井計画工房
取締役 一級建築士
櫻井 淳 (78期)

〒231-0007
横浜市中区弁天通6-85宇徳ビル403
TEL: 045-663-9271
FAX: 045-663-9273
E-mail: spajun@bk.ij4u.or.jp
Web Site: http://www.j-sakurai.jp/

圏に住むようになってから時間がずいぶん過ぎたが、たまに訪れると一瞬にしてタイムスリップし、何とも言えない懐かしさと郷愁の念を覚え、安らかな心になるのは私だけではないと思う。離れて判る故郷のありがたさ、ここはわれわれの「ふるさと」なのであろう。



赴任先に到着した坊っちゃん



教室での授業風景

羽田ブルワリーと 文系？理系！

鈴木祐一郎（104期）

平成26年12月に東京都大田区多摩川に「羽田ブルワリー」というクラフトビールの工場を立上げ発泡酒免許を取得しました。工場を立上げて無事に丸2年を迎えることができました。

工場と言っても皆さんがイメージする立派なタンクが並んでいるものではなく、ステンレスの寸胴を加工したタンクで作る小さな工場、休日と夜間を利用してほぼ手作りで工場を作りました。当初はビールサーバーに繋ぐ「樽」の出荷のみでしたが、平成28年秋に、補助金の採択を受けて瓶充てん設備を導入し、瓶ビールの発売も開始しました。

ビールを提供する店として、羽田バル（大田区西蒲田：協力店）、羽田タップルーム（大田区多摩川：直営店）、五反田タップルーム（品川区西五反田：直営店）で展開しております。

現在の職業は、社会保険労務士（東京都社会保険労務士会理事）、行政書士法人の法人社員、ビーエルジャパン株式会社代表取締役（羽田ブルワリーの母体）です。土業の傍ら、ビール作りをしていると話をする、どちらが本業ですか？と聞かれますが、「どちらも本業です。」と答えています。

高校1年に、文系と理系のどちらの大学に進学するか選択する時、叔父たちが、土業をしていましたので将来は、法律関係の仕事をしたいと考え、私立文系を選択しました。高校2年になって、平成バブルの崩壊の兆しが見え始めてきた時期で大学を卒業する頃には文系の就職が厳しいのでは？文系だと何を専攻したかではなくて、どこかの大学の何学部を出たかで、評価されてしまうのでは？と考えたり、たまたま生物の科目が好きで、成績も良かったこともあり、今思えば、無謀にも国立理系に選択換えしてしまいました。

一浪して、国立農学部も合格したのですが、微生物に興味があったので東京農業大学の醸造学科に進学しまし

た。醸造学科に行けば、酒造りなどを学んで、就職先も酒造りにしたいと入学したのですが、そんなに甘い話ではなく食品系の企業は給与水準が低く、酒造りの就職もそんなに多くありませんでした。大学在学中に「地ビール解禁」があり、同級生の多くがブルワリー（ビール醸造家）として就職しましたが、私は、大手電機メーカー系列の設備会社に就職しました。設備会社に就職したので、醸造とはもう縁はないと諦めていたのですが、そこが銀河高原ビールの工場プラントの元請会社で、入社1年目にプロジェクトに加わり2工場立上げと増設工事の仕事に従事しました。その頃からいつか自分でビール工場を持ちたいと思い、課題は、立上げ資金の調達と販売先の確保だと考え酒業界に転職、酒税免許を取るには法律の知識も必要だし、土業ならサラリーマンを違って働く時間は自由に調整できると考え社会保険労務士と行政書士になり、今のビール工場を作りました。

未だに、自分が文系なのか？理系な

がんばれ安積 がんばれ日本

渡邊 龍一郎（81期）

Watanabe Ryuichiro

〒170-0004東京都豊島区北大塚2-31-5-513
Phone : 090-1429-6127
E-mail : watanabe2021@ryu.bz

古川 清（63期）

あらゆる**木貫の床**を心を込めて施工します。
OK工法(床工事・内装工事)・調整床・板式器具・フローリングボード
フロアリングブロック・塗床・ネダホーム・OAフロアーその他一式工事

木貫床(フローリング)施工
孝和建商株式会社
千葉市中央区汐見丘町16番12号

取締役総務部長 **小林伸久(84期)**
電話:043-245-4111 FAX:043-244-9550
携帯:080-2045-0962
E-mail:nobuhisakoba@dooomo.ne.jp

のか？わかりませんが好きなことを仕事に出来ていることに感謝しています。

安積歴史博物館便り

橋本文典 (84期)

東京桑野会の皆さま、今回も安積歴史博物館の1年間を報告させていただく機会を設けて頂き有難うございます。お陰さまで博物館は概ね順調に運営されていることも併せて報告させていただきます。

28年も1月2月は例年のように祝日と土曜日曜を開館とし、3月からは平常の開館と致しました。

3月は「五年という年月」の写真展を開催いたしました。震災直後と5年が経った街の様相の変化を見ていただきたく、郡山在住の写真家に協力していただきました。4月はNHK土曜ドラマ「夏目漱石の妻」のロケ場所となりました。9月から連続5回放送され、ご覧になられた方も多いかと思います。

6月は理事・監事の改選が有り、安孫子新代表理事の下、財団の運営等に当たっていただいております。同じく6月には、講堂がシャンソン歌手のコンサート会場に利用され、沢山のお客様が黄昏の景色と歌声に魅了されました。続いて7月から8月は「鉄道写真展」を開催いたしました。鉄道風景画家と鉄道写真愛好家の皆さまの協力の下、展示作品の入替も行いながら鉄道

ファンの皆さまに来館いただきました。9月は本校卒業生のトランペット奏者、佐藤秀徳氏とギターによるデュオコンサートが講堂で開演されました。講堂に流れる空気が音楽と一体化し、伝統の深さを感じさせられました。

10月は新たな試みとして「こおりやまアーティスト・イン・レジデンス」(安歴博がアートになる)を11月6日迄開催いたしました。アーティストが郡山に滞在し、作品を完成させる過程も見学しながら、芸術に親しみ、芸術を身近に感じることも意図した企画でした。テレビや新聞等でも話題となり、宣伝効果は抜群でした。この企画は卒業生の鏡沼葵氏の尽力も有り、安積高校の全面協力をいただきました。その後、市内の写真教室の写真展も開催されました。12月は「百万人のクラシックライブ」が開催され、卒業生の圓谷俊貴氏のチェンバロと、同じく加藤菜々子氏、在校生の松野愛梨さんのヴァイオリンのコンサートが開催されました。以上が1年間の主なイベントとして挙げられ、旧本館の味わいが再認識されてきております。

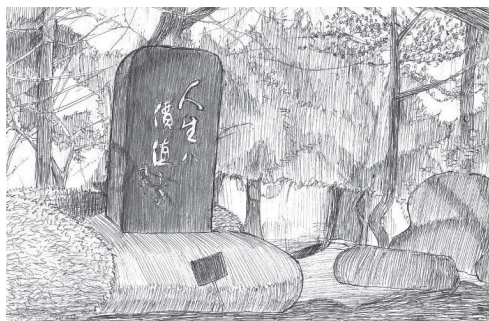
更に、4月には文化庁より安積開拓と安積疎水が「日本文化遺産」に認定され、郡山市や猪苗代町が全国に観光客誘致のアピールをしております。旧福島県尋常中学校本館も重要な構成文化財として注目され、来館者も増加傾向にあります。多くの卒業生を送り出した旧本館が、今度はお客様をお迎えする役割も担うようになったと考えます。

最後になりますが、来館者の皆様からのご支援も大切ですが、心強いものは東京桑野会の皆さまや卒業生の皆さまです。今後ともどうぞお力添えをよろしくお願いいたします。

朝河貫一顕彰のヒトコマ —映画「ウォーナーの謎の リスト」をめぐって—

矢吹 晋 (70期)

古川会長のもとでの顕彰協会の事業として行われたものではないが、朝河貫一の功績に関わる映画をご紹介したい。この映画は新藤兼人のもとで映画



《高山樗牛の碑》画：大槻佳乃子 (131期)

安高は自分の心の拠りどころ

医療法人社団 松弘会
トワーム小江戸病院

院長
医学博士 **渡辺 哲弥** (70期)
(練馬区東大泉7-14-15)

村山 俊司 (61期)

元 菱電商事社長

自宅：〒195-0072
東京都町田市金井3-13-7
TEL & FAX: 042-734-8876
携帯：090-5999-4814

ごうや
山田・合谷・鈴木法律事務所

弁護士 **鈴木 修一** (89期)

〒100-0012
東京都千代田区日比谷公園1番3号
市政会館1階115号室
TEL:03-3501-0451
FAX:03-3501-0452
E-mail:shuitisuzuki@nifty.com
http://www.yamada-law.gr.jp

作りを修行し、その後独立して作った「疎開した40万冊の図書」(2013年)が話題になった金高謙二監督の文化財保護活動第二作である。金高はパンフレットでこう呼びかけた——「戦争は狂気である。我師、新藤兼人はこの言葉を腹に据え百歳まで映画を撮り続けた。2001年3月、タリバンによるバーミヤン遺跡の大仏の破壊、2015年2月、過激派組織ISによるユネスコ世界遺産に登録されている古代ローマの主要都市ハトラの破壊。戦争は殺戮以外に人間の尊厳となる文化遺産をも破壊し続けて来た。異国の文化遺産とは言え人類共通の財産のはずである。——ラングドン・ウォーナーは、第二次世界大戦中に敵国である日本の文化財151ヶ所の保護リストを作成、それがあつたため日本の多くの貴重な文化財が残されたといわれている。ウォーナーはまた、『日本の禍機』の著者朝河貫一と戦争回避のためある行動に出た。だがそれは失敗に終り太平洋戦争へと突入して行く。美術家ウォーナーが残したかったものは何だったのか、と。

この前口上に至るまで、金高は試行錯誤の取材を重ねた。金高が東京西郊外の拙宅に足を運んだのは、2015年3月9日のことだ。私は『朝河貫一書簡集』を開きながら、朝河貫一とその弟子ともいべきウォーナー夫妻との手紙のやりとりを説明した。

その中身は、①ウォーナー夫妻の処女作『推古朝の仏教美術』(イェール大学出版会)のために朝河が序文を寄せた1923年当時の両者の往来、②幻の大統領親書執筆運動に関わる朝河とウォーナーの協力関係、③朝河の絶筆「新生日本への展望」がウォーナー宛て書簡の形で残されたこと、等々であった。①は『朝河貫一比較封建制論集』(邦訳、柏書房)に修められている。②は福島テレビ糠沢修氏が「朝河没後50周年」を期して作成した『幻の大統領親書』(1998年8月15日放映)で詳しく描かれ、③は矢吹著『敗戦・沖縄・天皇』(花伝社、2014)で引用されている。3時間余の私の説明を聞きながら金高は、夫人と思われる女性に合図を繰り返しながら、撮影を続けさせた。つまり、これは費用を極度に

節約しつつ、金高夫婦が二人だけで作った映画なのだ。

さて2016年5月25日、招かれた渋谷の試写会に向くと、狭い座席のすぐ近くには永青文庫の取材を受けた細川護熙元首相がおられたので、映画の感想を2,3立ち話した。永青文庫の人々は、空襲を免れたのは、近くの「カトリック教会の御利益」と教えられてきたので、今回のウォーナー=朝河恩人説に驚いた由であった。映画は秋に神保町シアターで2週間、その後東京都写真美術館ホールで1週間公開された。私は念のために神保町まで足を運び、観客の反応を観察したが、8割方の入りで、反応は悪くない印象であった。

『東京新聞』の名物コラム「大波小波」(2016年11月4日)は、映画のサワリをこう紹介した。——「神田古本まつり」へ行くと、神田神保町古書店街を空襲から守った恩人のドキュメンタリー映画をやっているというので観てきた。金高謙二監督の「ウォーナーの謎のリスト」である。ハーバード大学のラングドン・ウォーナーは、岡倉天心の薫陶を受けた東洋美術学者で、空襲から守るべき文化財リストを作成した人物とされる。リストがどの程度効力を持ったか、疑う向きもあるが、リストアップされた多くが無傷で残ったのは確かだ。日本の文化の文化を愛したウォーナーは空襲のみならず日米開戦そのものをも回還させようと努力した。1941年11月、彼はイェール大学教授の朝河貫一とともに、米国大統領



《安積・思索の森》画：阿部理季香(131期)

弁護士 齊藤 英彦 (69期)

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目3番8号
YKB新宿御苑804号室
電話 (03) 3356-6677番
FAX (03) 3356-6678番

労働保険の特別加入
1人親方労災保険加入のご用命は！

労働保険事務組合
神奈川SR経営労務センター

会長 佐藤 重夫 (79期)

(特定社会保険労務士)

事務局 〒231-0005 横浜市中区本町4-36
朝日生命横浜本町ビル8F
TEL: 045-212-5269
FAX: 045-212-3177
<http://www.kanagawa-src.jp>

株式会社 富士ハイエンジニアーズ
一級建築士事務所

代表取締役 (管理建築士) 遠藤 修 (67期)

(一級建築士)
(一級建築施工管理技士)
(一級土木施工管理技士)

〒215-0015 川崎市麻生区虹ヶ丘一丁目18番6号
☎: 044-988-7387 携帯: 090-3212-2892
FAX: 044-988-7547
E-mail: o-endou@river.ocn.ne.jp

領から昭和天皇への親書の草案をつくりあげ、大統領に手渡すことに成功した。ただし、当時の米国は参戦する口実を必要としていた。日本は開戦準備に邪魔を入れたくなかった。日米双方の思惑が絡んで、結局、親書が天皇のもとに届けられたのは真珠湾奇襲の約2時間後だった。無念！文化は安全保障の力になりうる。秋空の下、古本まつりの屋台の列が、頼もくみえた。

「大波小波」というコラムは、由来当代一流の識者が匿名で執筆するものとして知られているが（今回の筆名は「神保町マニア」）、一種の都市伝説ともいべき話題の背景をインタビュー構成によって、一つの作品に仕立て上げ、カゲの主演・朝河貫一の功績を分かりやすく映像化した「ウォーナーの謎のリスト」を実に的確に紹介してくれた。いずれDVD版が用意されると思われるので、桑野会メンバーにもぜひ観てもらいたいと思う。

（朝河貫一顕彰協会代表理事）

ホームページの運用状況報告

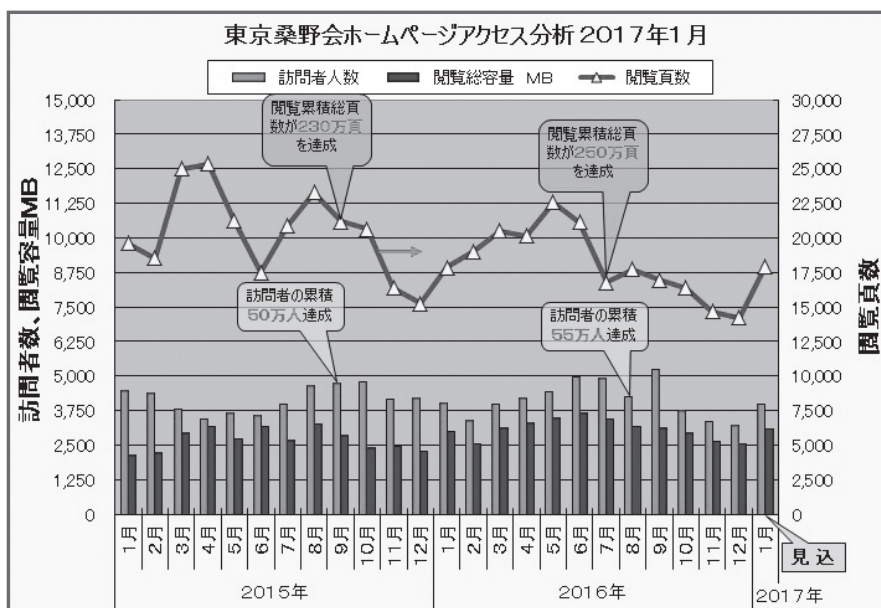
—創設14年目の活動とアクセス状況—

<http://www.tokyo-kuwano.com/>

芳賀雅美（86期）

（東京桑野会ホームページ委員長）

当会ホームページへのアクセス数は、2003年3月のグランドオープン



東京桑野会ホームページへのアクセス状況

から数えて、2016年7月21日にのべ閲覧総ページ数250万ページビューおよび同年8月30日にのべ訪問者総数55万人に達した。閲覧ページ数では、ここ2年連続で減少しているものの閲覧状態は順調である。

毎年の会報での年間活動報告は早いもので回を重ねて14回目となった。昨年2016年10月にホスティングサービス会社のサーバが4年ぶりにリプレイスされ、ハード面でのアクセス環境は一層快適になった。昨年度についても障害やトラブルが全くなく、このホスティングサービス会社の選定は正解であったと思っている。日ごろは感じないが何もないことが重要であり、ネット環境がスムーズに稼働することは喜ばしい。2016年度も平穏無事にホー

ムページを運用することができた。ご利用いただいた会員の皆様に深く感謝を申し上げます。

この14年目についての改訂や追加コンテンツについて簡単に記しておく。母校は2014年9月に創立130周年を迎えたが、この130周年記念頁の制作に2年かかってしまった。やっと昨年6月に全頁を完成させたが、作業の遅延をお詫びしたい。さらに昨年は、会員投稿のブログ形式記事をいつもより多い4件を掲載した。安積桑野会の新会長ご挨拶や安積歴史博物館の近況報告、福島第一原発関連2件の投稿である。また安積OBクイズを3年ぶりに追加改訂し、4名増の33名とした。その他、ゴルフ同好会活動報告、安積博でロケしたフジテレビ新春ドラマの

21世紀をリードする
安積SPIRIT!

浅川 章（76期）

東京桑野会副会長
〒338-0821さいたま市桜区山久保2-18-3
電子メール：chobi@hyper.ocn.ne.jp

展示会 平成29年12月13日(水)～25日(月)
土日会展：国立新美術館
出品作品 チャグ馬シリーズ(194×579cm)

高松 ゆたか（74期）

ギャラリー・
絵画教室 たかまつ
※肖像画注文承ります
(<http://www.gallery-takamatsu.com>)

石井総合事務所

司法書士・行政書士

石井 俊一（82期）

〒104-0061東京都中央区銀座8-8-15
青柳ビル7階

TEL :03-3289-1411
FAX :03-3289-1422
E-mail : s-ishii@e-1411.com
<http://www.e-1411.com>

紹介、朝河貫一博士関連のドキュメンタリー映画の紹介を、イベント頁に掲載した。更に例年通りではあるが、会長の新年度ご挨拶、役員・幹事の更新、総会・懇親会の結果の紹介についても、引き続き改訂して掲載した。主なコンテンツはこんなところであろうか。

さて、ここで当会ホームページへのアクセス状況について詳述する。訪問者数55万人、閲覧頁数250万ページビューに達したことは述べた。この1年間の平均で、月に訪問者4196人、閲覧頁18017頁で推移しているが、訪問者数で前年比1.0%増、閲覧頁数で前年比8.9%減となった。訪問者数は好調だった7年目の2009年の数値4337人に次ぐヒットだったが、閲覧頁数では、昨年に引き続き2年連続の減少である。なんとか月間平均で閲覧頁数2万ページビューを越えたいところだが、ここ数年での増減は大きな波のひとつと考えたい。しかしながら全般的にはアクセス数が低調で伸び悩んでおり、引き続き会員の皆様のご協力を賜りたく切に望んでいる。またコンテンツや情報の提供につきましても、随時事務局へご連絡頂きたく、再々であるがご協力についてこの場を借りてお願いしたい。

最後に毎年の決まり文句ではあるが、今後とも会員の皆様のご期待に沿えるよう、充実したページ作りに励みたいと考えている。重ねて当委員会への参加または情報提供を広く会員諸兄にお願いしたい。

第76期 滝田康雄君 郡山商工会議所会頭 就任のお知らせ

平田勝也 (76期)

滝田康雄君、郡山商工会議所会頭ご就任おめでとうございます。これから重責を担って郡山市を中心とする郷土の発展と、新しい未来像を創造して若い世代にバトンタッチしようと言う高い志と勇気に喝采を送り、私達同窓生として出来る限りの応援と助力を心掛けたいと思います。

昨年11月1日郡山商工会議所議員の任期満了に伴う会頭以下の議員改選が行われました。5月に亡くなられた丹治一郎前会頭の後を継ぐ新会頭選出に際しては、かねて副会頭4人全員が(株)恒和薬品社長の滝田康雄君(71)に立候補を要請していたもので、役員選任の臨時総会が平成28年10月31日(月)ビューホテルアネックス開催され、同11月1日(火)に会頭に就任されました。早速翌日新役員らと共に品川万里市長らを訪れ就任挨拶をし、その後次々と関係先に挨拶し折衝・主導する等多忙を極め、同年12月7日には福島民友新聞社、読売新聞社、福島中央テレビと共催で代表幹事としてYMC郡山セミナー(オランダ人ジャーナリストのドウィツ・キエルト氏(56)「郡山とオランダの交流」講演)を開催されました。同年12月21日には品川万里市長、岡隆一会津大理

事長兼学長、推進機構理事長の滝田康雄郡山商工会議所会頭が協定書を取り交わしICT活用「三位一体」郡山市、会津大、テクノポリス機構 | ORICON STYLEを打ち出しました。

昨年10月1日の東京三八会*では、「東日本大震災で被災した郡山市の産業を、創意工夫のうえあらゆる英知を総動員して周辺市町村と連携しながら立て直し、県中地区の経済発展を目指し、東北の雄として再び躍動感があり活気あふれ文化的にも優れた希望あふれる都市として発展を遂げ、特に次代を担う若者たちの力を結集し、彼らにバトンタッチしたい。」旨のご挨拶を頂きました。(*筆者ら主催の郡山市出身で学校を問わない同期生の懇親を目的とする会合)

また会頭就任前には、同年2月3日には、震災5年、復興へ結束 帝国ホテルで在京福島県経済人の集いが開催され、首都圏企業の幹部と県内行政、商工会議所の代表ら約250人が集り、「古里を取り戻すため、支援を続け、今後も被災地へ向けた薬品の安定供給に力を尽くす。」と述べておられます。

このように会頭就任と同時に連日多忙なスケジュールに追われる日々を過されており、ご本人に就任手記をお願いしておりましたがかなわず、本人の承諾を得て代わって報告した次第です。お身体くれぐれもご自愛の上、大いにご活躍されるよう私達は願っております。

「がんになる性格 ならない性格」
2016年8月 廣済堂、本田 宏、重久剛著

本田 宏(86期)

元埼玉県済生会栗橋病院 院長補佐
NPO法人医療制度研究会 副理事長
オール埼玉総行動 副実行委員長
一昨年3月で外科医を引退、戦後70年事実上米国の植民地となっている日本のルーツは、明治維新にあることを講演活動等を通じて発信中です。皆さまの応援を心よりお願いいたします。
連絡用メールアドレス hondahiroshi@me.com
携帯番号 090-3205-9482

株式会社開成プランニング 代表取締役
(http://www.kaisei-planning.co.jp)

和田 正哉(77期)

〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-2
勤務先電話: 03-3230-8001
FAX: 03-3230-8550
携帯 : 090-3236-3883
e-mail: wada@kaisei-planning.co.jp
携帯mail: wada-masanori@docomo.ne.jp
自宅電話: 047-332-2287

奮い立て我健男児

大矢 真弘(88期)

平成 27 年度決算報告書

平成 28 年度予算案

(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

I 収支計算書 (平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

	決 算 額	予 算 額
収入の部		
(1) 前年度繰越金	544,357	544,357
(2) 年会費収入	881,000	1,000,000
(3) 総会費収入	861,000	1,100,000
(4) 協賛広告料	280,000	300,000
(5) 受取利息	86	70
(6) 雑 収 入	33,000	30,000
収入合計	2,599,443	2,974,427
支出の部		
(1) 総会懇親会費	998,500	1,100,000
(2) 通 信 費	46,705	40,000
(3) 会 議 費	0	2,000
(4) 会報作成費	378,000	378,000
(5) 会報発送費	316,672	310,042
(6) 事務消耗品費	80,251	150,000
(7) 母校後援費	0	30,000
(8) 冠婚葬祭費	16,200	50,000
(9) 支払手数料	40,156	50,000
(10) 人 件 費	380,000	380,000
(11) 交 通 費	1,090	50,000
(12) 名簿編集費	0	10,000
(13) ホームページ・広報部会運営費	34,960	40,000
(14) 雑 費	0	10,000
(15) 予 備 費	0	50,000
支出合計	2,292,534	2,650,042
次期繰越金	306,909	

	予 算 額
1 収入の部	
(1) 前年度繰越金	306,909
(2) 年会費収入	900,000
(3) 総会費収入	1,000,000
(4) 協賛広告料	290,000
(5) 受取利息	80
(6) 雑 収 入	30,000
収入合計	2,526,989
2 支出の部	
(1) 総会懇親会費	1,000,000
(2) 通 信 費	50,000
(3) 会 議 費	0
(4) 会報作成費	375,840
(5) 会報発送費	297,657
(6) 事務消耗品費	150,000
(7) 母校後援費	20,000
(8) 冠婚葬祭費	20,000
(9) 支払手数料	50,000
(10) 人 件 費	380,000
(11) 交 通 費	20,000
(12) 名簿編集費	0
(13) ホームページ・広報部会運営費	40,000
(14) 雑 費	10,000
(15) 予 備 費	30,000
支出合計	2,443,497
次期繰越金	83,492

II 財産目録 (平成 28 年 3 月 31 日現在)

A 特別会計

事業準備積立金 定期預金 (三井住友銀行) 1,067,425

B 現預金

(1) 普通預金 (三井住友銀行) 269,896
 (2) 郵便振替貯金 36,217
 (3) 現金 796

上記は監査の結果いずれも適正なものと認める。

平成 28 年 4 月 20 日

会計監査 関 根 健 治
 会計監査 丹 治 則 男



《安積歴史博物館(旧本館)》画：石井野絵 (131 期)

【協賛広告のお願い】

東京桑野会会報は、三千数百部を発行し、母校・安積高校や福島県立図書館などにも納入されております。“安積卒業生の心意気”を協賛広告で示してみませんか。お問い合わせは事務局まで。

【事務局からのお願い】

会報の発送は、会員各位の住所動向に大きく左右されます。住所が変わっていると、折角の会報も戻ってきてしまいますので、住所変更の際は東京桑野会の事務局まで、ご連絡下さいますようお願い申し上げます(東京桑野会ホームページにも、連絡先を表示しております)。安積桑野会の方にご連絡された方も、ご面倒でも東京桑野会の方にもご連絡下さい。

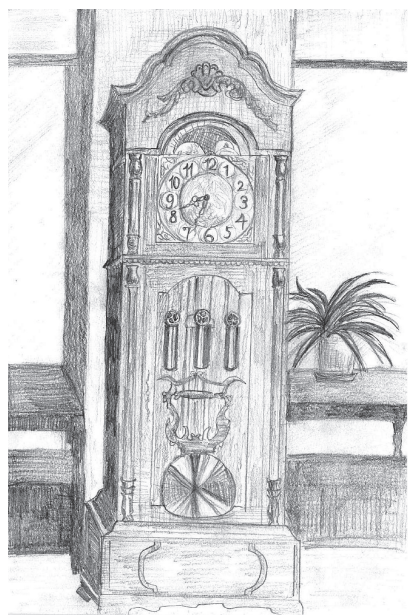
【会費納入のお願い】

東京桑野会の活動は、会員の皆様の会費によって支えられています。会報の作成・送付も会費によって賄われています。現在、会報を送付している会員からの会費納入の達成率が低迷し、東京桑野会の財務が逼迫しつつあります。東京桑野会の健全な財務状態を維持するためにも会費納入をお願いいたします。(東京桑野会は安積桑野会とは別会計となっておりますことご承知ください)

編集後記

待望のエジプト観光旅行を敢行した。国勢状況の悪化で日本からのツアーが中断していたが、昨年11月よりエジプト政府主導でチャーター直行便が半年間限定ではあるが週1回1便で復活した。個人旅行は除外され大手の旅行会社のみ対象となる共同運航で、関空始発で成田経由、毎週日曜日出発翌週日曜日帰国の8日間の日程。ここで行かないと行けなくなると思って参加した。各社・各複数コースで1組20名ほどの団体ツアーが、1機当たり15組ほど搭乗する。皆日本人の爺さんと婆さんばかりだ。無差別テロに遭って墜落しても、冥途のみやげと旅行保険をいっぱい掛けての参加だ。ピラミッドや神殿、王家の谷、ミイラ博物館、ナイル川4泊5日のクルーズ船でアブシンベルまで遡上し観光を満喫した。他国観光客も多くあいかわらず大人気の国。(がっちゃん)

昨年10月、がっちゃんさんからEメールを拝受。広報部会(ホームページ委員会)出席要請でした。小生は、2002年末に同委員会発足時に初参加後、2006年に同期幹事を交替して、同時に広報部も退任したと思っていた



《大時計》画：橋本明音(131期)

ので、突然のメールに困惑。しかし、先輩のお誘いを無碍にもできず、桑野会事務局の神田法律事務所を訪れました。参加してみると、今号のテーマは煮詰まっていて、誰に原稿を割り振るかということまで来ていました。小生が割り当てられたのは「坂の上の雲」で撮影に使われた旧本館にまつわる記念写真とエピソードを集めることでした。母校教員を務めた同期生を頼りに話題探しを試みましたが、その当時、NHKのガードが堅く、撮影現場のスナップ写真撮影もままならない状況だったそうです。残念!でも誰か秘蔵写真持っていませんか?(上91色)

私は、会報の挿絵の係を担当しています。挿絵の作家は、安積卒業後、絵を描き続け発表されているOBにお願いしています。まれに、花かつみの方も2~3人お願いしたこともありました。今年平成29年は「安積OB展」開催年に当たり、参加される会員は現在54期久間木正範先輩をはじめとして、30名ほどかと思われま。所は御存じの“旧本館”(安積歴史博物館)、幹事は75期熊田喜宣先生です。本題の挿絵の件ですが、安積OB≒30名の内10名の方々に既に花を添えていただきました。今年29年は安積高現役美術教員98期樫村俊智先生です。先生のバルコニー本館をこよなく愛し観察を続け、桑野の村に屹立する学舎を、今の世に伝える表現は、第一人者です。今回は、先生の育てられた現役生の作品もお寄せくださいました。お礼を申し上げます。我が桑野会の裾野の確かさに意を強くし、桑野のキャンパスにエールを送ります。

“ヤレヤレヤレやグルマイタホ!ドンがドンがドンがドンがドン!”

(74期 高松ゆたか)

今回初めて広報部に関わらせていただきました。先輩方に囲まれながら編集会議(という名の飲み会?)に参加させていただきましたが、世代を越えて分け隔てなく接していただけるのは、正に安高クオリティーそのものだと感じました。会議をしながら、やはり話題として上がるのは、安積での

思い出話。もちろん、それぞれ世代が違うため、思い出話も違うわけですが…、それでもどこか共感することができる。これは同じ安積で学んだ者同士だからこそ分かち合えるものなのだと改めて思いました。さて、今年も東京桑野会の季節がやって参りました。今年は何んな会になるのか今から楽しみです。(115期安孫子哲教)

この歳で、卒業論文に悪戦苦闘し、編集会議は、最初の1回のみで、編集後記を書く立場にはないが、佐藤静司先輩の記事に敬服しました。自分もあと30年頑張ろうと元気を頂きました。羽田ブルワリーの鈴木さんという後輩を発見!是非総会で話をしたいと思いました。「映像でみる安積」は編集に苦労されたようで、ご苦労さま。渡邊隆一郎助監督の話で初めて聞く話もあり、青春だったのですね。私事ですが、無事神学校を卒業し、4月から横浜の教会で伝道師として働きます。事務所の代表は息子譲り、後方支援に回ります。(78期櫻井淳)

小生が広報部で会報の編集に携わるようになって、結構な時間が過ぎました。アイディアが枯渇し始め、見かねたHP委員長氏が編集部員の拡張を提案、それに応えて今号から、N@91期さん、M@92期さん、G@107期さん、A@115期さんらが編集に携わって下さいました。皆様、東京桑野会報へのご寄稿、常に募っております!是非、東京桑野会事務局まで、ご一報下さいませ!(GF91)

『東京桑野会会報』No.39

2017年4月1日発行

発行・編集人●古川 清

発行所●東京桑野会

〒101-0044

東京都千代田区鍛冶町2-9-5

東園ビル7階

新神田法律事務所内

Tel03-3252-9671 Fax03-3252-9673

E-mail asaka@tokyo-kuwano.com

URL <http://www.tokyo-kuwano.com/>

製 作●株式会社キタジマ

〒130-0023 東京都墨田区立川2-11-7

Tel03-3635-4510 Fax03-3635-4515